

Relax

癒やしの風景

通勤途中の道から見える原の辻遺跡の風景。「真っ赤に染まる朝夕の時間帯がきれいなんです」と山本さん。



この島だから実現できる
仕事と暮らし。



吉岐の中でも原の辻遺跡が見渡せる、この辺りの雰囲気大好きです。

Work

島のために地元の人たちと



山本さんの事務所が入る「吉岐テレワークセンター」にて。市役所の職員さんたちとの打ち合わせも和やか。



いものをきちんと残すというだけでなく、自分たちの島を残すためには新たなツール、つまりこんな先進的なことをやっているという自負が必要で、これがないと未来を築くことができないと考えています。先進的なものをどんどん取り入れることで、子どもたちに愛郷心が生まれたら、島の未来は変わっていくと思いますね」。

吉岐で暮らすようになって二年。山本さんは島と本気で向き

合ってきた。「目標を達成するために十年はかかりますから」と笑いながら教えてくれたのは、島で家を購入したこと。「自宅は職場から車で五分。途中には氏神様を祀る神社があり、そこから見える原の辻遺跡の風景がとっても素敵なんです」。彼女の笑顔からは、島暮らしの充実ぶりが伝わってきた。

山本さんは、こうした吉岐市の動きに合わせて、教育、高齢者事業、農業、医療の面から新たな取り組みを行っている。例えば、島の高校生にウェブサイトの制作などを学べるプログラム「自治体SDGsモデル事業」に選定された。

山本さんは、こうした吉岐市の動きに合わせて、教育、高齢者事業、農業、医療の面から新たな取り組みを行っている。例えば、島の高校生にウェブサイトの制作などを学べるプログラム「自治体SDGsモデル事業」に選定された。

＼長崎で働く、暮らす。／

Yamamoto Mayumi

山本真由美さん

Work

- 〇株式会社キャニオン・マインド 常務取締役
- 〇未来こども工房合同会社 代表

Area 吉岐市 ◀(二拠点)▶ 京都府

Work

高校生への授業

吉岐商業高校の生徒に対するプログラミング授業の風景。島の子どもたちとの交流も楽しい。





島の食材

Enjoy

「野菜や魚はもちろん、お米が美味しくビックリしました」と山本さん。香州豆腐など地元ならではの食材もよく使う。

Relax

島でできた友人たちと女子会

おみやカフェの名物ドリンク「神社エール」を楽しみながらの女子会。椒子さんと由喜さんと過ごす時間はあつという間。



長崎で働く、暮らす。Yamamoto Mayumi

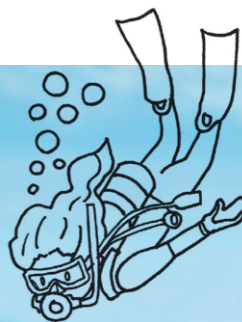
壱

岐に暮らすようになってから増えたのは、読書の時間。「以前は車通勤で、片道一時間以上かかっていました。その時間がなくなった分、ゆっくり本を読む時間も増えましたね」。自宅から車で十分も走れば、真っ白な砂浜が伸びるエメラルドグリーンの海。気持ちの良い潮風に吹かれながらの読書や散歩の時間は最高の気分転換だ。ダイビングのインストラクターの資格を持つ山本さんは「そろそろ壱岐の海にも潜りたい」と次の楽しみを教えてくださいました。

島に移住してからは、作る料理も変わったという。「洋食や中華というより、ひじきを炊いたり、魚を捌いたりすることが増えましたね。釣りも始めたので、釣り仲間から魚をもらうことも多くて笑)。今年はいただきものの梅でシロップを漬けました。一杯、いかがですか」。炭酸で割った梅シロップは爽やかな甘さで、島の恵みがいっぱい感じられた。

山本さんは移住後の出会いも大切にしており、二人の友人を紹介してくれた。「男嶽神社の宮司さんのお母さんである椒子さん。そして神社横の『おみやカフェ』を切り盛りしている由喜ちゃんです」。なんと椒子さんは五十年ほど前に神戸から岐島へ嫁いでこられた移住の大先輩。また由喜さんも大阪からの移住者だという。三人の関西弁でのおしゃべりはとどまることを知らず、次から次へと会話に花が咲く。「よくこうやって女子会をするんです。椒子さんからは手作りの味噌をいただいたり、料理を教えてくださいました。ありがとうございますね」。

山本さんは「壱岐を訪れるなら、一週間ほど暮らしてほしい」と話す。「住んでみて初めて魅力が分かる。壱岐はそんな島です」。



Refresh

海でのひととき

自宅からすぐの場所に、まるでプライベートビーチのような海が広がる。これぞ壱岐暮らしの醍醐味!